

総務省地域情報化アドバイザー優良事業事例

優良事業事例団体

団体名: 高山市

- 人口 : 85,204人(令和4年3月1日)
- 面積 : 2,177.61平方キロメートル
- 主な産業 : 観光関連産業、農林畜産業
- 地域情報化アドバイザー名 : 浦田 真由 氏
- 派遣対応年度 : 令和元年度
- 派遣回数 : 1回
- 支援形態 : 個別アドバイス
- 支援分野 : 情報活用



古い町並(上三之町)

優良事業概要

■事業名: AI顔認識システム活用の可能性

■事業の概要: 「飛騨高山」として国内外から多くの観光客が訪れる中心市街地において、AI顔認識システム(AIカメラ)を活用した人流量計測を行い、通行者の性別や年代等の属性を把握・分析し、EBPMに基づく各種施策への活用を図ることにより、「データ駆動型のまちづくり」を進める。アドバイザーの受入後、市と大学、民間企業の間で「ICTを活用したまちづくり連携協定」を締結し、市民課窓口の混雑状況の公開やデジタルサイネージの活用など数多くの実証実験を進めるとともに、データ活用に向けた市民ワークショップの開催など、多彩な取組みへと発展している。

■依頼内容: 旧城下町と商店街の間を流れ、朝市が営まれる「宮川」に新たな人道橋や賑わい創出施設を整備するにあたり、人流の変化を捉えたエリア全体の回遊性向上や地域活性化などの効果検証が、市としての大きな政策課題となっていた。

AI顔認識システム(AIカメラ)の活用による整備前の人流量計測のための実証実験を進めるなかで、EBPMへの活用方策、データを活用したまちづくり施策、その他技術的な助言・支援を求めた。

地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

■支援を受けた内容:

- ・データの詳細分析(時間帯、性別、年齢別の傾向など)
- ・実証実験に対するアドバイス(長期的なデータの取得・分析、気象など関連するデータとの突合など)
- ・事業全体に対するアドバイス(地域通貨やデジタルサイネージ等との連携による地域活性化策など)



アドバイザーからの支援



AI顔認識システムによる人流計測画面

■その後の関与:

- ・派遣を受けた翌年度に、市とアドバイザーの所属する大学、AI顔認識システムベンダーとの間で「ICTを活用したまちづくり連携協定」を締結し、様々な実証実験や実装、データ活用策、デジタル活用促進に取り組むなど、現在も継続・発展

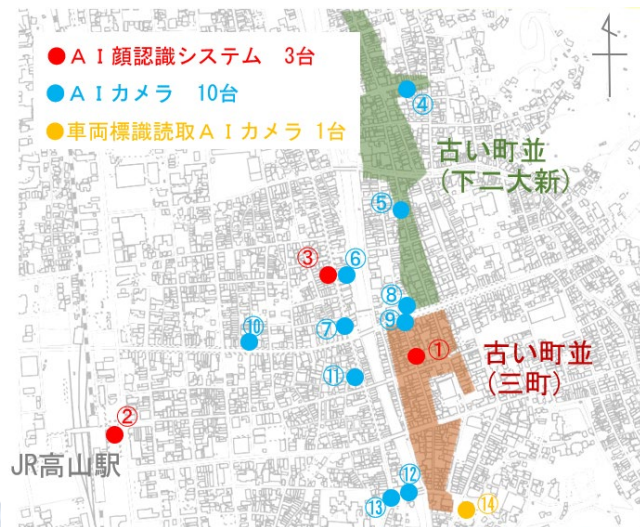
支援を受けた事業の最新状況

■AI顔認識システムの設置拡大:

宮川左岸1台の実装に加え、JR高山駅前、古い町並の3台に順次拡大
小型AIカメラ10台による実証実験(人流のほか自動車、自転車等も計測)を長期継続中

■市民ワークショップ等の開催:

分析結果やデータ利活用方法を地元商店街や学生等と協議
学生が開発した分析アプリ(まちなかの人流と各店舗の入込比較等)の試行
学生を講師に「デジタルなんでも相談会」を開催



市民ワークショップ



デジタルなんでも相談会



デジタルサイネージ実証実験

■市民課窓口混雑状況の可視化:

住民異動窓口の混雑状況をAIカメラで把握し、曜日ごとの傾向などとともにHPに公開

■デジタルサイネージの活用:

高山駅構内のデジタルサイネージとAIカメラを連動し、看板の正面に立った観光客の属性に応じた観光情報を提供する実証実験を実施

中心市街地における人流の現状分析や可視化、入込客の予測等により、効率的な観光やおもてなしの充実などに活用

データ駆動型
のまちづくり

【目指す姿】



地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

■総務省東海総合通信局からのメールや冊子、AI顔認識システムベンダーからの紹介

地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

■アドバイザー派遣費用の予算化が不要、年度途中に応募できるため、自治体としては大変利用しやすい。また、派遣されたアドバイザーの知見やノウハウが豊富、全国各地での同種の取組みに参画されている経験からの的確な助言等が得られた。

令和3年度の「高山市DX推進計画」の策定に際しても、同アドバイザーから紹介されたデータ活用のスペシャリストであるアドバイザーにより、取組みへの参画や助言が得られた。